



ドローンプログラミングチャレンジ in 白浜に出場！

10月14日(土)、15日(日)の2日間の日程で『ドローンプログラミングチャレンジ in 白浜』がおこなわれ、本校1年生の九十九みんとさん、山本陽日さん、藤岡夕衣さんが出場しました。小型ドローンをプログラミングで操縦し、設定されたミッションをクリアしていく大会です。結果は第6位と目標には届きませんでしたが、ドローン操縦の難しさやプログラミングの楽しさを実感し、とても貴重な経験をすることができました。ちなみに大会で用いたドローンは本校でも複数台購入しています。今後も**向陽 STEAM 教育講座**としてドローン講座を校内で開催しますので、興味のある方は今後の案内を要チェックです！



飛ばせ！ドローン
白浜で中高生大会

県内中高生の大会「ドローンプログラミングチャレンジ in 白浜」が14、15日、白浜町であった。6校の15人が参加し、プログラミングによるドローン操作の正確性を競った。

県内の教員らでつくる県宇宙教育研究会と、IT企業「クオリティソフト」(白浜町中)の共催。プロの開催を計画しており、プログラミングでの課題解決を「フレ大会」として企画した。

会場はクオリティソフト。室内に設けたコースでドローンを飛ばす。機の下をくぐったり、フラフープのような輪の中を通過したり。内蔵するカメラでコース上に設置した布の色を認識して、右や左に旋回したり。設定された課題をク

クリアしてポイントを競った。中高生は事前に準備してきたプログラムで、ドローンがうまく飛ぶかを確認。2日間で何度もコースを飛ばして、修正を繰り返した。3回あった大会に勝った。宇宙教育研究会会員で向陽高校教諭の有田啓介さんは「かなり高度なプログラミング能力が必要で、トラブルも必ず出てくる。そこをどう乗り越えるかの思考訓練は、宇宙開発にも通じる」と奮闘を見守った。

最終3回目の大会ではほぼ完璧な飛行を実現し、優勝した開智高校の岸野伊吹君(2年)は「今日の午前までは練習でできたことが本番でできず、その修正に追われた。大変だけど、うまくいった時の達成感は大い。宇宙には興味がある。将来、機械分野で働くことができればうれし」と笑顔を見せた。

試行錯誤しながらプログラミングしたドローンを飛ばす高校生(白浜町中で)

